

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 6 月 25 日 (2020.6.25)

【公表番号】特表 2019-522812 (P2019-522812A)

【公表日】令和 1 年 8 月 15 日 (2019.8.15)

【年通号数】公開・登録公報 2019-033

【出願番号】特願 2018-561538 (P2018-561538)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

B 3 2 B 7/023 (2019.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

B 3 2 B 7/023

B 3 2 B 27/00 B

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 5 月 15 日 (2020.5.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の遮断軸を有する吸収型偏光子と、前記第 1 の遮断軸に対して実質的に平行な第 2 の遮断軸を有する多層ポリマー反射型偏光子と、を含み、前記吸収型偏光子及び前記反射型偏光子が互いに結合されている偏光子積層体であって、

前記反射型偏光子は、前記反射型偏光子を 95 で 40 分間加熱した場合に、前記吸収型偏光子との結合に先立ち、前記第 2 の遮断軸に沿って 0.4 パーセント～3 パーセントの範囲の収縮率を有する、偏光子積層体。

【請求項 2】

前記吸収型偏光子及び前記反射型偏光子は、接着層を介して互いに結合されている、請求項 1 に記載の偏光子積層体。

【請求項 3】

前記反射型偏光子とは反対側の前記吸収型偏光子上に配置された接着層を更に含み、前記収縮率は、前記接着層を介してガラスシートに積層された前記偏光子積層体を 95 で 100 時間加熱した場合に、前記反射型偏光子が、マイクロリンクルを実質的に含まないような収縮率である、請求項 1 に記載の偏光子積層体。

【請求項 4】

前記反射型偏光子の前記収縮率は、前記偏光子積層体を 95 で 40 分間加熱した場合に、前記第 1 の遮断軸に沿った前記吸収型偏光子の収縮率の 0.9～3 倍である、請求項 1 に記載の偏光子積層体。

【請求項 5】

前記吸収型偏光子は、少なくとも 1 つの保護層に結合した光学活性配向ポリマー層を含む、請求項 1 に記載の偏光子積層体。

【請求項 6】

前記反射型偏光子は、交互に配置された複数の第 1 及び第 2 のポリマー層を含み、前記第 1 のポリマー層は、前記第 2 の遮断軸に沿って第 1 の屈折率を有し、前記第 2 のポリマー層は、前記第 2 の遮断軸に沿って第 2 の屈折率を有し、前記第 2 の屈折率は、前記第 1 の屈折率よりも小さく、前記第 2 のポリマー層は、100 未満のガラス転移温度を有する、請求項 1 に記載の偏光子積層体。

【請求項 7】

前記ガラス転移温度は、80 未満である、請求項 6 に記載の偏光子積層体。

【請求項 8】

バックライトと、ガラス層と、請求項 1 に記載の偏光子積層体と、を含むディスプレイであって、前記偏光子積層体は、反射型偏光子とは反対側の吸収型偏光子上に配置された接着層を更に含み、前記偏光子積層体は、前記接着層を介して前記ガラス層に接着されており、前記偏光子積層体は、前記ガラス層と前記バックライトとの間に配置されている、ディスプレイ。

【請求項 9】

前記反射型偏光子は、前記ガラス層に接着された前記偏光子積層体を 95 で 100 時間加熱した場合に、マイクロリンクルを実質的に含まない、請求項 8 に記載のディスプレイ。

【請求項 10】

前記反射型偏光子は、前記ガラス層に接着された前記偏光子積層体を 100 で 1000 時間加熱した場合に、マイクロリンクルを実質的に含まない、請求項 8 に記載のディスプレイ。